

令和2年度 学校自己評価（2月）

中津市立沖代小学校

1 学校の教育目標

自ら学びあい 仲間とともにやり抜く児童の育成

評価判断基準

A …達成率90～100% B …達成率70～ 89% C …達成率60～ 69% D …達成率60%未満

目指す資質・能力	重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標	評価	成果と課題、及び次学期（次年度）に向けての取組
至きて働く知識・技能の	わかるでできるを実感する	○「わかった できた」と感じることでできる児童80%	○個に応じた指導を徹底し、全員に基礎基本を習得させ向上できる授業の推進	○ヒントカードやヒントコーナー、問題量の調節など、一時間の中に学年の実態に応じた個別指導の工夫を必ず取り入れる。	B	・「学校の勉強は分かる。」についての肯定的回答は92%
		○国語算数の単元テストで達成率80%以上 ○市学力調査達成率昨年より向上	○時間を守ろうとする態度の育成	○授業開始の合図を守り、チャイム前着席を促す。	A	○授業がわかると感じる割合が増え0層の授業への参加をする態度は改善されてきている。 ◇0層の学力保障については、学期末だけではなく年間を通じた看取りの工夫をしていく必要がある。
		○児童アンケートで「時間やきまりを守って行動できる学校である」と答える割合が90%以上	○学校での学習活動の確認	○子どものノート等を1週間に1回は見ながら、励ましの声かけをする。	B	・「時間やきまりを守って行動できる」に肯定的回答をした児童は88%
		○児童アンケートで「時間やきまりを守って行動できる学校である」と答える割合が90%以上	○学習サポーターやボランティア活動の充実	○どの学年にも読み聞かせや学習サポーターとして学期に1回以上参加する。	B	○児童の時間を守る姿が、全校的に定着することができた。 ◇1年間を見通して取り組む重点課題を設けることを今後も続けていく。
采知の状況にも対応できる思考	他者と対話的に関わりながら、自己や他者を尊重する	○他者の意見を取り入れ思考を深める児童の割合80%以上	○学ぶ意味を理解し、主体的に進める学習活動および家庭学習・読書の確立	○学年に応じたねらいを持って他者と対話して学び合う場を1日1回は行う。	B	・「友達の意見を聞いて自分の意見を変えたり付け加えたりした」に肯定的回答をした児童は80.3%
		○自ら進んで家庭学習に取り組む児童の割合80%以上		○学習活動および家庭学習（読書）について全教職員が共通したイメージを持っているか確認するとともに、月に2回、家庭学習が読書のみ（+αは1つまで）の日を学校統一で設定し、実行する。	A	○他者と対話して学び合う場作りをすることは、定着している。 ◇発達段階に合わせた学び合いのスタイルの共通理解をさらに深め、学び合う力の見取り方を工夫していく必要がある。
		○児童アンケートで「進んで読書をしている」と答える児童70%以上	○主体的に自分の学習・読書を計画できる力の育成	○家庭学習での読書する姿を見取り、親子で読書についての会話をする。 ○毎日自主的に取り組む家庭学習ガイドに沿って励ましの声かけをする。	A	・「すすんで家庭学習に取り組んでいる」に肯定的回答をした児童は82%
		○お互いの良さや違いを認め「みんなと力を合わせて取り組めた」と答える児童の割合90%	○挨拶プラスワンの取り組みを進める	○登下校の子ども達への「おはよう」「おかえり」の声掛けを実施する。	A	・「すすんで読書している」に肯定的回答をした児童は79%
る学びに向かう力・人間性等の涵	自己や集団の課題に気づき、共にやり抜く力	○自分の生活や生き方を考えることができた児童80%	○人権の視点を大事にして授業や学校生活を展開し、安心感や将来への意欲向上	○友だちの話をしっかり聞き、相手の意見を大事にしなが、自分たちの生活をよりよくするための方法を考え振り返る場を設定する。	B	・「自分の生活や生き方を考えることができた」に肯定的回答をした児童は85%
		○学校や学年や学級の課題に気づき、自分たちで取り組みを決め、解決できると答える児童80%	○課題を改善してよりよい生活を作り出す力の育成	○学年や学級がより高まるための課題(あすなろそうち以外も)を見つけ、問題解決につながる取り組みを考える活動ができる。	A	○何ができなかった、できるようになるためにはどうしたらよいか考えることで、生活のめあてをもつことができる児童が増えた。特に学年での活動が、効果的であった。 ◇人権の視点大切に教育課程の見直しをする。
		○児童アンケートで「運動が楽しい」と答える割合が85%以上	○生活の中で主体的に運動に取り組むことができる力の育成	○休み時間にタイムを計るなどしながら50m走やハードル走に取り組んだり、鬼ごっこ集会を開いたりして、遊びながら体力づくりができる環境づくりを体育委員会と連動して行う。	A	・「学校や学年や学級の課題に気づき、自分たちで取り組みを決め、解決できる」に肯定的回答をした児童は83%
		○児童アンケートで「運動が楽しい」と答える割合が85%以上	○主体的に自分の生活を計画できる力の育成	○毎日のインターネット使用についてルールをつくり、定期的に児童と話し合う。	B	○学級での課題を明確にして、課題解決につながる取り組みについて話し合いを通して考え実行するという「課題解決」の流れが、児童に定着した。 ◇より自発的な行動につながるような取り組みを工夫していく。
革の推進	め信頼の向上	○「沖代小学校は、困ったとき学年・分掌部等チームで助け合える職場である」と答える教職員の割合が80%以上	○チームで育てる学年・分掌運営	○課題の改善や緊急の対応を学年・分掌部等チームで行う。	A	・「運動することが楽しい」に肯定的回答をした児童は89%
			○会議の精選	○会議の目的の明確化をし、水曜に各種会議を実施	A	○積極的に児童が外に出て運動するようになった。 ◇自由な遊び時間としての休み時間と取り組みのバランスを考えていく必要がある。
			○地域によさや課題を伝える	○単元や教材に応じたゲストティチャートとして活動を行う。	B	・保護者アンケートによる達成率は70.6%
○家庭地域	○働き方改革における学校業務の共通理解とサポート	○学校の働き方改革について理解し、ゲストティーチャーやサポーターとして学校支援を行う。	B	◇新しい情報も加えた保護者への啓発が常に必要。 ○コロナ禍で、学習サポーターを予定通りに招聘することはできなかったものがあったが、できる範囲でのご協力をいただいた。 ・「沖代小学校は、困ったとき学年・分掌部等チームで助け合える職場である」に肯定的回答をした教職員は83%		
					A	○チームとして働くことで、課題への共通理解が深まっている。 ○緊急な事案による会議以外は、各種会議を水曜に実施できた。
					B	○コロナ禍で、学習サポーターを予定通りに招聘することはできなかったが、できる行事ではコロナ対策を含め積極的に協力していただいた。